

防災気象講演会「2026年運用開始 新たな防災気象情報」を開催しました (2026/5/21)

テーマ：防災気象情報、学校防災、防災教育、仙台管区气象台との包括的連携協定

会場：災害科学国際研究所 多目的ホール（オンライン配信も実施）

URL：<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/keiho-update2026/index.html>

（気象庁ホームページ「新たな防災気象情報について（令和8年～）」）

日本気象協会と仙台管区气象台、災害科学国際研究所が共催して、2026年5月21日に防災気象講演会「2026年運用開始 新たな防災気象情報」を行いました。情報名称に警戒レベルの数字をつけて発表されるなど防災気象情報が大きく変わり、5月29日から運用が始まります（システムの切り替え作業は28日午後を予定）。そこでこの講演会は、自治体や企業の防災担当者などを主な対象として、新たな防災気象情報についての理解を深め、適切な活用につなげていただくことを目的に開催しました。

災害科学国際研究所からは、佐藤健教授（防災教育実践学分野）が「防災気象情報を利用した避難計画づくり」というテーマで講演しました。石巻市教育委員会で実践している防災主任研修・管理職研修の事例を挙げながら、学校安全マニュアルの“実効性を高める”ために防災気象情報は必要不可欠なものであることや、新たな防災気象情報の運用は学校現場にとって、学校安全マニュアルの修正を含む「防災管理」、「防災教育」、「防災研修」の全てに波及し、従来の運用から修正して対応する必要があることなどを指摘しました。

新たな防災気象情報は、市町村等が発令する避難情報や住民がとるべき避難行動との対応が分かりやすく整理された半面、これまでと内容が大きく変わるために利用者への周知徹底、理解促進が大きな課題とされています。会場の多目的ホールには約70名の参加者が集まり（オンライン参加者は約270名）、講演を聴いたり理解度を確認するワークに取り組んだりしながら理解を深めている様子でした。

当研究所と仙台管区气象台は包括的連携に関する協定を締結していて、今回の講演会でも当研究所は広報室が中心となり、仙台管区气象台と連携・協力しながら運営にかかわりました。今後も調査・研究や普及啓発などにおいて、仙台管区气象台との連携・協力を重ねてまいります。

文責：佐藤正則（広報室）

（次頁へつづく）



防災気象講演会で講演されたみなさま



会場の様子



新たな防災気象情報を説明するポスター



講演する佐藤健教授



ワークに取り組む参加者